

若い世代の意見交換会

令和5年11月28日（火）

フューチャリングアイデアソン～未来を創ろう2～ in 八尾市
「みんなで助け合う生きるためのつながるチカラ・つなげるチカラ」
誰もが自分らしく人生を創ることができるジェンダー平等社会へ

自分が困ったときに適切な情報につながることで、また、孤立している他者を若者同士の力で必要な支援に「つなげる」ことを取り上げ、意見交換を行いました。

【参加者】

阪南大学及び近畿大学の学生 男女計 36 名

【共 催】

八尾市人権ふれあい部人権政策課

八尾市健康福祉部地域共生推進課

【連 携】

阪南大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科准教授 武藤麻美氏

近畿大学法学部教授 上崎 哉氏

大阪経済法科大学キャリアセンター・公務就職支援室 三戸康世氏

■ 背景・課題

男女共同参画センター「すみれ」の利用者を見ると、10代～20代の利用が少ない（R4年度：10代0%、20代2.8%）。10代後半～20代は、社会人として第一歩を踏み出す人生の岐路であり、男女共同参画の視点を持つことは、その後の長い人生を選択していく上でのエッセンスになりうる。

また、この年代はさまざまなハラスメントやデートDV、ストーカー被害、またヤングケアラーなど自分の望む生活ができずに生きづらさを抱える人もいる一方で、行政の窓口につながるきっかけが少なく、啓発が届きにくい層でもある。取り組みと若い世代とがつながらないことが大きな課題であり、それは行政全体の課題でもある。

■ 目的

参加者にとって、単に考えを出し合うだけではなく、今後の学生生活で何かしらの実践や行動に結び付くような内容とする。

そのために、行政が抱える具体的な課題を切り口に、自分達が暮らすまちは、行政、民間、個人が互いに協力して創っていくもので、学生自身も地域資源の一つになり得るという視点を持ちながら、実践者の立場で考えるテーマ設定に留意する。

また、出された意見は今後の八尾市の取り組みに活かし、若い世代への働きかけに活用するとともに、その参加者と成果を共有することで参加者の達成感につなげる。

■ 意見交換のテーマ

- (1) 身近に困難を抱える友人はいますか？（いましたか？）
⇒ 若者の身近な困りごとにはどのようなものがあるかを出し合う
- (2) 困難を抱える友人に、何をしてあげられるだろう？
⇒ 自分達にできることを考える
- (3)（相談窓口等について学んだ上で）孤立している人を前に、自分はどう行動する？
⇒ 相談窓口につなげることを視野に入れて、働きかけ方を考える
- (4) 若い世代に届く発信を考えよう

■ 意見交換会での意見 別紙参照

■ 意見交換会参加者の声

- 普段、人と話して1つの物事について深く議論するという場がなかなかない中で、今回のようなグループワークができて良い経験になったまた身近な困っている人のためという課題に対して理解が深まった。
- 普段、孤立している方について、深く考える機会がなく、その方への接し方や解決策を考えることができた。
- 他学年だけでなく他の大学の学生との流できて、とても楽しかった。自分にはない発想をもっている人がたくさんいて、発見になった。など

■ 意見交換会内の意見を基に作成された「若者視点で同世代の困っている人を支援に繋げるための発信」

学生が考えたキャッチフレーズや呼びかけをもとに作成した短編動画を市のホームページや男女共同参画センター「すみれ」のホームページで公開、また、阪南大学ホームページでも発信した。

短編動画：YouTube 上に作成

配信開始：令和6年3月25日

再生回数：42～90回（令和6年7月29日時点）

- 彼氏に依存してしまっている友人へ～自分のために 自分ファースト～
- デートDV
- 悩みを抱えるその若いあなたへ
- 困っている人を、相談に繋げるために たくさんの人に興味を持ってもらう広報
- あなたの悩み、悩みじゃないかも
- 仕事関係や恋人関係の悩み
- 親が日本語を話せないことで生活に困っている人はいませんか？
- つらい思いを抱えるあなたへ